

## 第二編 帝国トノ交渉案件

帝国ノ会議脱退後ノ交渉案件左ノ如シ

## 第一 「オブザーバー」 参加問題

一、一月十五日帝国全権ヨリ第一委員会議長宛脱退通告文ヲ送付シタルニ対シ同議長ハ一月十六日附左記答翰ヲ送付越シ会議ニ我方ノ「オブザーバー」参加方ヲ招請セリ

以書翰啓上致候陳者本官ハ昨日貴全権カ日本全権團ハ最早今次会議ノ討議ニ有效ナル協力ヲ継続シ得ストノ結論ニ達シタル旨ヲ指摘セラレタル本官宛貴翰ヲ本日ノ海軍會議第一委員会議ニ提示致候各全権團トモ日本全権團ノ決定ヲ真ニ遺憾ト致シ候

右決定ニ依リ生スル困難ニ拘ラス會議事業ハ継続スヘキコトニ決定致候

第一委員会ハ本官ニ対シ日本政府ハ會議ノ事業ト接触ヲ保チ其ノ進行振ニ付政府ニ報告シ得ル如キ一名又ハ數名ノ「オブザーバー」ヲ残サル希望ナキヤラ確ムヘキコトヲ要請致候右申進旁々云々

二、帝国政府ハ右會議側ヨリノ招請ニ応シ在英藤井代理大使及藤田海軍武官ヲ「オブザーバー」トシテ出席セシムルコトシタリ仍テ一月二十日帝国全権ハ第一委員会議長「モンセル」ニ対シ右招請受諾ニ関スル同日附左記書翰ヲ手交スルト共ニ我方「オブザーバー」ハ尠クトモ連盟ノ「オブザーバー」ト同等

ノ地位ニ立ツヘキモノナル旨ヲ述ヘタル処議長ハ勿論其ノ通ナリト答ヘタリ

以書翰致啓上候陳者本月十六日附貴翰了承帝国政府ハ會議事務ト接触ヲ保ツヘキ「オブザーバー」残置方ニ闕スル御招請ヲ受諾スルコトヲ茲ニ回答スルハ本官ノ光榮トスル所ニ有之候帝国政府ハ右「オブザーバー」ハ第一委員会ノ會議及其ノ他重要ナル會議ニ出席スヘキモノト了解致候

帝国政府ハ藤井代理大使及藤田海軍武官ヲ倫敦海軍會議ヘノ「オブザーバー」ニ任命シタル旨茲ニ附言致候

右申進旁々云々

斯クテ我方「オブザーバー」二名ハ一月二十九日第十三回會議以後第一委員会ノ各會議ニ列席セリ

## 第一 太平洋防備制限問題

一、本年一月二十三日第一委員會議長「モンセル」ハ永井全権ノ來訪ヲ求メ会談ノ際華府條約中太平洋防備制限項ノ存置問題ニ言及シ同問題ニ闕スル我方ノ意向ヲ尋ネタルニ付全権ハ右ニ付テハ會議ヲ脱退セル今日何等意見ヲ述フルヲ得サル旨簡單ニ答ヘタル処「モンセル」ハ日本政府ノ意向ヲ知リ置クコト會議指導上好都合ナリトテ請訓方ヲ希望セリ

二、右ニ対シ帝国政府ニ於テハ二月十二日帝国政府ノ意向トシテ左ノ趣旨ヲ英國側ニ申入方を英藤井代理大使ニ訓令セリ

英國ノミナラス米國側ニ於テモ希望スル場合防備制限ニ闕スル事項ヲ单独ノ条約トシテ協定ヲナスコ

トハ其ノ趣旨ニ於テ異存ナキモ會議ヨリ脱退セル今日之カ取扱方ニ付テハ會議參加ノ場合ト自ラ異ナルモノアルニ付之ニ対スル關係國ノ意向並ニ之カ取扱振明カトナリタル上協定ノ方法其他ニ就テハ更メテ考慮スルコト致度シ

三、在英藤井代理大使ハ二月十八日「クレーギー」ヲ往訪右訓令ノ趣旨ヲ申入レタル処「ク」ハ本件ニ関スル日本側意向ノ明瞭トナレルヲ欣幸トス自分一個ノ意見ニシテ英代表部ノ意見ニハアラサルモ英國トシテハ本協定ノ存続ハ財政的見地ヨリスルモ必要ナリト思考ス米國側意向ハ未タ的確ニ承知セサルモ防備制限ハ華府比率ノ代価ナリトノ考ヨリ華府條約カ效力ヲ失シ而モ日本ヲ含ム新タナル海軍制限條約力成立セサル以上右条項ノミヲ存続セシムルハ反対ナリトノ意向ヲ示シタルコトアルモ右ハ其ノ最後的ノ言葉ニハアラスト思考ス何レ米國側ノ意向ヲ確メ御内報スヘシ又本協定ハ仏伊ハ直接關係ナキ次第ナレハ今次會議トハ独立ニ外交機關ヲ通シ日英米三国間ニ協定スルコト致度シト述ヘ次テ日本側ニテハ本件協定ノ實質的内容変更等ノ意思アリヤト尋ネタルニ付藤井代理大使ハ右ニ関シテハ何等ノ訓令ニ接シ居ラスト答ヘ置キタリ

四、其ノ後本件ニ關シ英側ヨリ何等申出ナカリシニ依リ藤井代理大使ハ三月十九日「クレーギー」ヲ往訪會議ノ序ヲ以テ本問題ニ対スル米側態度ヲ尋ネタル処「ク」ハ本件ハ日英米三国間ノミノ關係事項ナルカ目下海軍條約ノ起草等ニ没頭シ居ル為米側ヨリ未タ回答ナシ別ニ火急ヲ要スル儀ニモ非サルニ付其ノ儘トナリ居ルモ何レ何分ノ返事アルヘシト期待シ居レリト答ヘタリ

### 第三 潜水艦使用制限規則參加国拡大問題

一、今次海軍會議ノ劈頭英國側ハ潜水艦使用制限ニ關スル倫敦條約第四編ヲ同條約ト切離シ別個ノ協定トシ仏伊及其ノ他ノ各國ヲモ之ニ加入セシメ以テ将来無制限ナル潜水艦戦争ヲ防止シタキ意向ナルコトヲ明ニシタルカ帝国ノ會議脱退（本年一月十五日）ニ至ル迄ノ間ニハ本件ハ議題トナルコトナカリキ

二、帝国ノ會議脱退後一月十八日英国外務省法律顧問「マルキン」ハ我方隨員榎本海軍書記官ノ來訪ヲ求メ潜水艦使用制限問題ニ關シ倫敦條約ト全然内容ヲ同一トシ且日英米三国間ニ批准ニ要スル正規ノ手続ヲ避ケ得ル如キ形式ノ新文書ヲ作成シ他国ノ参加ヲ求ムルコトトスル意向ナル旨ヲ申出テタリ

三、一月二十日永井全權ハ訓令ニ基キ第一委員會議長「モンセル」及「クレーギー」ニ対シ今後會議ニ於テ潜水艦使用制限其ノ他我方ニ於テ賛成シ得ヘキ条項ヲ建艦通報質的制限等ノ賛成シ得サル事項ト共ニ一括シテ单一ノ協定トナシ前者ニ付テノミ我方ノ参加ヲ求メラルカ如キ場合ニハ我方ハ之ヲ受諾シ得サル旨ヲ述ヘタル処「モ」「ク」共ニヨク了承セリト答ヘタリ

四、其ノ後一月二十三日「モンセル」ハ永井全權ト會議ノ際潜水艦使用制限問題議ニ上リタル際ニハ日本政府ニ於テ成ルヘク速ニ处置シ得ル様希望スト述ヘタルニ付永井全權ハ我方ノ準備ノ都合モ有ルニ依リ前広ニ内報アリタキ旨念ヲ押シ置キタリ

五、一方第一委員会ニ於テハ三月十一日十五回国會議ノ席上仏國側ヨリ倫敦條約第四編ヲ新條約中ニ挿入シ加入国拡大ヲ計ルヘシト述ヘタルニ対シ英側ハ同編ト新條約トハ全ク別個ノモノニシテ英トシテハ両協

定ノ同時署名実現ニ努ムヘキモ前者ノ為ニ後者ノ成立ヲ阻ムヘキニアラスト信ス差当リ代表部間ノ非公式会談ニ依リ必要アラハ特別委員会ヲ設クヘシト述ヘ右ニ決セリ

六、其ノ後本件ニ付テハ英米仏伊ノ諸国間ニ話合進行ノ模様ナリシニ付我方ヨリ案文入手方英側へ申入レタル處三月十六日「クレーギー」ハ藤井代理大使宛書翰ヲ以テ本件措置方ニ関スル「プロセ、ヴエルバル」英案及仏案ヲ送付越スト共ニ右ハ未タ決定案ニ非ス早キニ及テ我方ニ通報セサリシハ未確定案ヲ提示スルモ日本側ヲ煩スニ過キスト認メ遠慮セルニ過キスト申添ヘタリ本件英案及仏案ハ何レモ日英米仏伊及英自治領ノ代表ニ依リ署名セラレ其ノ内容ハ(イ)仏伊両国カ倫敦条約第四編ノ潛水艦使用制限規則ヲ受諾シ(ロ)且署名各国カ英國政府ニ対シ一切ノ他国ニ右規則受諾方ヲ勧奨スルノ権限ヲ賦与スルニ在ルモノナルカ

右両案ノ相違スル主要点ハ英案ニ在リテハ仏伊両国ニ依ル「批准」ノ問題ニハ触レス單ニ両国カ本件規則ヲ受諾シ且遵守スヘキコトヲ明確ニ規定セルニ反シ仏案ニ在リテハ若シ關係国(日英米)カ倫敦条約不批准国(英案ノ如ク「仏伊」ト明記セス)ニ依ル本件規則ノ部分的批准ニ異議ナキニ於テハ此等不批准國政府ハ近キ将来ニ於テ倫敦条約第四編ヲ批准スル意思ヲ宣言スルニ止マレル点ナリ

而シテ此ノ点ニ關シ仏國側隨員「ドルーズ」カ我方ニ語リタル所ニ依レハ仏國トシテハ不可分ノ一条約ノ特定部分ノミヲ批准スルカ為ニハ先ツ右條約全体ヲ批准セル國ノ同意ヲ要ストノ見解ヨリ英案ニ異議アリトシ前記仏案ヲ提出シタル趣ナリ

七、本件ニ付スル米側見解ニ關シ當時「ホルマン」(會議事務總長)カ我方ニ語リタル所ニ依レハ米側トシ

テハ元來倫敦条約第四編カ無期限ニ有效ニシテ同條約ノ他ノ部分トハ自ラ別個ノモノナルノミナラス英側カ今日迄同編加入國拡大ノ手続ヲ採ラサリシハ仏伊ノ無批准ノ結果同條約第二十五条第一項所定ノ条件実現セサリシカ為ナルニ依リ英側ヨリ日米ニ対シ右三国以外ノ加入勧奨方委任ヲ求メ來レハ之ニ応シ差支ナシトノ意向ナル趣ナリシカ其ノ後本件案文ハ大体仏案ニ決定スルノ形勢トナルヤ米側ヨリ異見出テ結局仏案中部分的批准ノ承認ニ關スル部分ヲ削除シ此ノ点ニ付テハ仏伊ヨリ關係国ニ右部分的批准ニ異議ナキヤヲ問合ス書翰ヲ送付スルコトニ決定シ三月二十一日午後我方ニ対シ修正「プロセ、ヴエルバル」案並ニ之ト関連シ仏(伊)ヨリ日(英米)ヘ送付スヘキ左記書翰案ヲ送付越セリ

仏(伊)代表ヨリ我方(及英米)ニ宛テ送付セラルヘキ書翰案(仮訳)

以書翰啓上致候陳者本官ハ千九百三十年四月二十二日「ロンドン」ニ於テ署名セラレタル海軍條約第四編ヲ批准セントスルノ仏蘭西共和國政府ノ意思ヲ閣下ニ對シ確認スルノ光榮ヲ有シ候右共和國政府カ右意思ヲ懷クニ至リタルハ前記條約カ他ノ部分ニ關シテハ本年末ヲ以テ満了スヘキノ事實ヲ考慮シタルニ依ルモノニ候

本官ハ右ノ情況ノ下ニ大日本帝國政府ニ於テ前記ノ措置ニ付シ異議ヲ有セサルヘキコトヲ希望スルト共ニ本官ニ付シ其ノ旨ノ確認ヲ与ヘラルヲ得ハ感謝ノ至ニ不堪候

右申進旁本官ハ茲ニ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

八、帝国政府ニ於テハ倫敦条約第四編潜水艦使用制限規則ニ各国ノ加入ヲ求ムルコトニハ異存ナカリシモ之カ取扱ノ手続ニ関シテハ新国際約束ノ形ヲ避ケル方適當ナルヘントノ見地ヨリ本件ハ倫敦条約（第十二条第二項「締約国ハ他ノ一切ノ国ニ対シ前記規則ニ其ノ同意ヲ表セんコトヲ勧誘ス」）ノ実施問題トシテ処理スルコトシタキ趣旨ヲ以テ前記案文中ニ第二十五条ヲ引用シ居ル点並ニ正当ノ「委任」ヲ受ケタル各國代表ヨリ英國政府ニ対シ他國ヘノ勸誘方ヲ「委任」スルコトトナリ居ル点ヲ削除セル修正案ヲ英側ニ提示スルト共ニ仏（伊）トノ書翰交換ハ取りヤメタキ旨交渉シタル結果英側ハ新ニ我方要求ヲ容レタル修正案ヲ三月二十八日送付越シタルニ付我方ハ右ニ異議ナキ旨並ニ出来得レハ些少ノ字句修正ヲ希望スル旨回答シタル處四月二日英側ハ右我方希望ノ通り修正ヲ諾シ茲ニ左記「プロセヴエルバル」案ニ閲シ日英間ニ合意ヲ見タルカ他方前顯仏國ヨリ我方ニ送付越スヘキ書翰ニ閲シテハ英側ハ仏カ国内手続ノ関係上本件書翰ニ固執スヘキハ推察ニ難カラサルニ付同案ヲ修正シ関係國ヨリ同意ノ返事ヲ取付ケサル一方的通告ノ形式トシテハ如何ト述ヘタルモ我方係官ハ單ニ仏側ニ本文書發送取止メ可然説得ヲ依頼シ置キタリ

日英間ニ合意ヲ見タル「プロセヴエルバル」案（仮訳）

千九百三十一年四月二十二日「ロンドン」ニ於テ署名セラレタル海軍軍備ノ制限及縮少ニ関スル條約カ一切ノ署名國ニ依リテハ批准セラレサリシニ依リ

又右条約ハ国際法ノ確立セル規則トシテ商船ニ対スル潜水艦ノ行動ニ関スル規則ヲ掲ケタル無期限ニ有效ナル第四編ヲ除キ一九三六年十二月三十一日ヲ以テ效力ヲ失フニ依リ

又右第四編第二十二条ノ末項ハ締約国ハ他ノ一切ノ国ニ対シ前記規則ニ其ノ同意ヲ表セんコトヲ勧誘スル旨ヲ掲クルニ依リ

又仏蘭西共和国及伊太利王国ノ政府カ右条約署名ノ結果タル右規則ノ受諾ヲ確認セント欲シ居ルニ依リ

又右条約ノ一切ノ署名國カ成ルヘク多數ノ國カ右第四編ニ掲ケラル規則ヲ国際法上ノ確立セル規則トシテ受諾スヘキコトヲ希望シ居ルニ依リ

各自ノ政府ノ代表タル下名ハ条約ノ前記第二十二条ヲ銘記シ茲ニ別添右規則ニ確定的ニ且無期限ニテ加入セシコトノ招請ト共ニ右規則ヲ直ニ右条約ノ署名國ニ非サル一切ノ國ノ政府ニ通報セんコトヲ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」連合王国ニ於ケル皇帝陛下ノ政府ニ要請ス

規則

（倫敦条約第二十二条(一)及(二)）

一九三六年 月 日 倫敦ニ於テ署名ス

九、帝国政府ニ於テハ本件仏側ヨリノ書翰案ニ閲シ重ネテ攻究ヲ加ヘタルカ譬へ英國側申出ノ如ク一方的通報ノ形式ニ改ムルトスルモ尚仏（伊）ノ部分的批准ヲ正式ニ承認スルコトナルヲ以テ我方トシテハ国内手続上之ヲ受領スルコト困難ナリ然レ共前記「プロセヴエルバル」ニ署名スルコトハ関係國ニ於テ

仏（伊）カ部分的批准ヲ為スコトヲ承認スルコトヲモ意味スルモノナルニ付此ノ外ニ別個ノ文書ヲ要セサルヘキ儀ナリト認メ右ノ趣旨ヲ以テ本件文書取止メ方ニ関シ重ネテ英側ト交渉方在英藤井代理大使ニ訓令シタリ

依テ同代理大使ハ四月八日「クレーギー」ニ対シ右趣旨ヲ説明シタル処「ク」ハ「プロセヴェルバル」案ハ之ヲ更メテ熟読スルニ如何ニモ貴見ノ如ク一切ノ場合ヲ「カヴァー」シ今更公文發送ヲ必要トセサルヤニモ思考ス然レトモ予テ申上ケタル通り英側トシテハ之ヲ好マサルモ仏カ国内手続上必要ナリト云フヲ強ヒテ反対ノ必要無シト為スモノニテ結局日仏間ノ話合ノ結果ニ英ハ勿論米、伊モ同意スヘシト信スト述ヘタリ

右ニ対シ同代理大使ヨリ英側印象ニ依レハ仏側ハ本件文書ヲ固執スヘキヤト質シタルニ「ク」ハ然リ日仏共ニ現在ノ見解ヲ固執スルニ於テハ在仏貴国大使ト仏外務省ト交渉スルノ外ナカルヘク本件固執ノ張本ハ法律顧問「バードヴァン」ナルヘシト答へ更ニ伊ノ意向ニ付夫レト無ク尋ネタルニ伊ハ本件ニ大ナル意見無キヤニ見受ケラレ大体仏次第故仏カ本件文書ヲ固執セハ伊モ之ニ同スヘシト答ヘタリ

一〇、四月九日在英帝国大使館員ハ在同地仏大使館「カンボン」參事官ヲ往訪我方見解及從来ノ經緯ヲ述ヘ本件文書断念方ヲ申入レタル処「カ」ハ極メテ當惑ノ色ヲ示シ実ハ只今政府ヨリ回訓ニ接シ之ヨリ「クレーギー」ニ通報スヘキカ右ニハ「プロセヴェルバル」日本修正案ニ同意シ又書翰案ニ付テモ「クレーギー」提案ノ如ク同意ヲ要セサル形式トスルニ異議ナキモ日英折衝ノ為本件文書ヲ「ドロップ」セサル

様注意スヘシトアリト回訓ヲ讀上ケ実ハ日英案ノ「バラグラフ」ノ順位ニ付テモ修正意見ヲ申送リタルモ英側ハ日本側ト漸ク妥結ニ達シタル案文ノ順位ニ付議論ヲ再開スルノ意無シトノコト故沈黙シタル次第二モアリ仏ハ仏側ノ重要視セシ第二十五条「レフア」ヲ第二十二条ニ代ヘ其ノ他万事日本側ノ御趣旨ニ副ヘル案ニ同意スル次第二モアリ今ヤ返事ヲ要セサル形式トナレル本件文書受領ヲ御承諾願ヘ間敷キヤト述ヘタルニ付

我方係官ハ最前モ申述ヘタル通り「プロセヴェルバル」ニテ一切ヲ尽シ居ルトノ我方見解ナルニ依リ到底右形式ノモノニモ同意セサルヘク此ノ点既ニ「クレーギー」ニモ述ヘ置キタリ就テハ實体ニ關係無キ形式ノ問題タル本文書ニ付貴我政府ノ意見一致ヲ見ストセハ貴下ニ何等対策アリヤト尋ネタルニ日本側ノ御都合ヲ考ヘ前述同意ヲ取付ケタル此ノ際更ニ政府ノ固執スル文書断念方ヲ稟請スルモ見込無キヤニ存セラルニ付巴里ニテ御話願フト共ニ當方ニ御通報ヲ得タシ尚余一己ノ思付トシテ内密ノ御参考迄ニ申述フル次第ナルカ其ノ際本件文書ニ付スル対策ヲ出サレタナラハ如何トモ存ス何レニセヨ自分トシテハ仏政府カ本文書其ノモノヲ断念スヘシトハ思ハレスト述ヘタリ

一、右仏國側態度ニ鑑ミ帝國政府ハ更ニ在仏大使ニ対シ前頭ノ趣旨ニ從ヒ直接仏國政府當局ト折衝方訓令シ四月十一日在仏大使館三谷參事官ハ仏國側ニテ本件關係事務ヲ担当セル連盟局「ポール、ボンクール」ヲ往訪本件書翰断念方ヲ説得シタル処「ボ」ハ実ハ昨夕貴下御來訪ノ報ヲ受クルヤ寿府滯在中ノ「バドヴァン」トモ電話ニテ協議シタルカ仏國トシテハ最後迄讓歩シタルモノニシテ倫敦條約ノ一部批准ヲ為

スカラニハ他ノ締約国ニ於テ右ニ異議ナキコトヲ明白ニスルヲ要シ他日仲裁裁判ニ繫属又「コンセイユ、デタ」ノ審議ヲ受クルニ至ルカ如キ場合ニモ一点ノ非難ナキヲ要シ右ハ仏国政府トシテハ本件条約ノ批准ヲ議会ニ求ムルニ当リ絶対ニ必要ナリ又条約第二十二条ニ依リ加入スルコトハ其ノ現調印国タル地位ニ顧ミ是亦不可能ナリ元来仏国トシテハ往翰ニ對シ承諾ヲ要求シタルモノ日本側ノ御困難ニ顧ミ復翰ヲ要セサル形式ニ迄譲歩シタル次第ニシテ之以上ニハ方法ナシト切言セリ

依テ同參事官ヨリ日本トシテハ仏国カ一部批准ヲ為スコトニ必スシモ異議アルニアラサルモ問題ノ書面ノ受理ヲ困難トスル次第ナリトテ国内手続上ノ事情ヲ説明シ「プロセヴエルバル」中「仏伊政府カ右規則ノ受諾ヲ確認シ」ナル文句ハ仏国カ部分的批准ヲ為スコトヲモ「カバー」シ他ニ文書ヲ必要トスル理由ナキニ非スヤト反駁シ更ニ「バドヴァン」トモ協議反省方ヲ求メタル処「ボ」ハ之ヲ承諾シタルモ重ネテ仏国トシテハ部分的批准ニ關シ関係国ニ異議ナキコトヲ明白ニスルコトヲ国内手続上絶対ニ必要トシ「プロセヴエルバル」案ノ文句ノ如キ漠然タルモノニテハ部分的批准從テ本件參加ハ結局困難ナリト述ヘ居タリ

#### 第四、帝国ノ新條約加入方ニ関スル英國政府ヨリノ招請

英国外務大臣ハ四月三日附在英藤井代理大使宛書翰ヲ以テ新海軍条約ニ關シ帝国政府ニ於テ何等御意見アラハ欣ンテ之ヲ承ルト共ニ御説明致スヘク他方同條約第三十一条ニ基キ日本政府カ本條約ニ加入セラレンコトハ英國政府及他ノ右條約署名政府ノ希望スル所ナリトノ趣旨ヲ申越セリ

#### 本件書翰（仮訳）左ノ通り

以書翰啓上致候陳者本官ハ三月二十五日附書翰ヲ以テ日本政府ニ転達ノ為貴官ニ對シ三月二十五日倫敦ニ於テ合衆国、濠州連邦、加奈陀、仏蘭西、「グレートブリテン」及北部愛蘭連合王国、印度及新西蘭ニ依リ署名セラレタル海軍軍備制限条約及署名議定書ノ正文認証謄本ヲ送付スルノ光榮ヲ有シ候右謄本ハ條約第三十二条及議定書第三節ノ規定ニ準拠シテ送付セラレタルモノニシテ同日署名セラレタル追加議定書ノ写ヲ添付シアリ候

二、貴官ハ尙海軍會議事務總長ヨリ總会及第一委員会會議ノ議事録写並ニ各種専門分科会ノ報告写ヲ受領アリタルヘク候右書類ニ依リ且會議ニ日本「オブザーバー」参列ノ結果トシテ日本政府ハ署名各國ヲシテ現ニ條約及署名議定書中ニ表ハルル規定ニ合意スルニ至ラシメタル各般ノ考慮ヲ了知セラルヘク候日本政府カ正文ニ關シ何等意見ヲ提起セント希望セラルニ於テハ英國政府ハ之ヲ承ルト共ニ其ノ与ヘ得ル説明ヲ供スルヲ欣幸ト致スヘク候

三、條約第三十一条ニ指摘セラルル通り條約ハ一九三〇年倫敦海軍條約署名國ノ加入ノ為ニ開カレアリ候日本政府カ慎重考慮ノ上本條約ニ加入シ得ルニ至ランコトハ英國政府及他ノ本條約署名國政府ノ希望スル所ニ有之候

右申進旁云々

一九三六年四月三日

「クレーギー」

藤井代理大使殿

## 第五、英國「ホーキンス」級甲級巡洋艦四隻ノ処分問題

(一)英國海軍ノ申出

一、本年二月十四日英國海軍當局ハ我在英海軍武官ニ対シ覺書ヲ手交シ帝國海軍省ニ伝達方ヲ依頼シタルカ右覺書ハ英國政府ニ於テ倫敦條約ニ基キ本年中ニ処分スヘキ「ホーキンス」級甲級巡洋艦四隻（何レモ七・五吋砲ヲ裝備スル点ニ於テ他ノ甲級巡洋艦（八吋ヲ裝備ス）ト異レリ）中三隻ハ其ノ備砲ヲ六・一吋ニ改メ他ノ一隻ハ練習艦ニ闊スル倫敦條約ノ規定ニ準拠シテ非武装練習艦トシテ保有シ他方乙級巡洋艦五隻二万一千百二十噸ヲ廢棄シ以テ本年末ニ於ケル英國ノ保有巡洋艦ヲ甲級十五隻一四四、一二〇〇噸乙級三十三隻一九四、一二六噸、合計四十八隻三三八、三四六噸タラシメントスル意向ナルコトヲ明ニシタルモノナリ

二、右ニ対シ我在英武官ヨリ英國側カスカル措置ニ出テントスル根拠如何ヲ訊ネタルニ英國海軍側ハ本件ハ倫敦條約中ニ的確ニ準拠スヘキ条項ナキモ同條約ノ禁止スル所ニモ非スト思フ倫敦條約第十六条第二項ニモ「艦種」ニ於ケル合計噸數トアリテ「艦級」トハ云ヒ居ラス実ハ現在ノ會議カ大体片附キ次第公式ニ日米政府ノ意向ヲ問フ積リニテ若シ其ノ際貴方カ本件ニ反対ナレハ之カ了解ニ関シ交渉ヲ開始スルコトトナリ

(二)米國側ノ態度  
ルヘシ尚練習用巡洋艦ハ日本ニ三隻アルモ英ニハ保有ヲ許サレス他ニ英ノ保有シ得ル標的用巡洋艦ハ現ニ無キ次第ニテモアリ何トカ本件全般ニ付都合ヨク了解シテ載キタキ希望ナリト述ヘタリ

(三)帝国海軍側ノ回答  
一、帝国海軍側ニ於テハ右英國海軍當局ノ申出ニ対シ攻究ヲ加ヘタル結果  
(一)倫敦條約ニ依レハ各艦種及艦級每ニ条約許容量ヲ超過スルモノハ処分規則ニ従ヒ処分セラルヘキモノナルカ右処分ノ方法中ニハ「艦級ノ変更」ニ依ル処分ヲ認メ居ラサルカ故ニ処分スヘキ甲巡ヲ乙巡又ハ練習艦ニ改装シテ保有スルコトハ許サレサル所ナリ

(二)又英國ノ乙巡ノ保有量ハ倫敦條約第十六条ニ一九二、二〇〇噸ト規定セラルニ付英側ノ云フ如ク之ヲ超ヘテ一九四、一二六噸ヲ保有スルハ許サレサル所ナリ  
(三)又練習艦ニ闊シテハ倫敦條約ニハ英國ハ主力艦一隻（「アイアン、デューク」）ヲ練習用ニ保有シ得ル規定アルニ依リ右以外ニ練習艦ヲ保有スルハ條約違反ナリ

トノ見解ヨリ英國側ノ措置ニ対シテハ異議アル旨申入ルモ同時ニ本件ハ之ヲ我方ニモ都合ヨキ様問題ヲ  
荒立ツルコトナク解決スルヲ適當ト認メ依テ

一、三月三十一日在英海軍武官ヲシテ英海軍側ニ対シ

「本件ハ倫敦条約ノ解釈ニ関スル問題ナルヲ以テ正式ニハ外交経路ニ依ルヘキモノト考フル処次ニ述フ

ル所ハ單ナル内談トシテ聽カレ度

本件ハ帝国海軍ニ於テ目下研究中ナルカ我方係官ニ於テハ本件ノ措置ハ何レモ倫敦条約ノ規定上許サレ  
サル所ナルヤニ考ヘラル英側申出ノ如クンハ最大噸数超過艦ハ之ヲ練習艦等トシテ保有スルヲ妨ゲスト  
モ解釈セラルヘシトノ見解ヲ有セリ」

トノ趣旨ヲ申入レシメタル処英側係官ハ右ハ早速軍令部長ニ伝フヘキモ英海軍省ニ於テハ一隻ヲ練習艦ト  
シテ保有スル点ノ外ハ倫敦条約ニ抵触セサルモノト解釈シ得ト思惟ス何レニセヨ追テ外交経路ニ依リ正式  
ニ交渉セラルヘシト答ヘタリ仍テ我海軍武官ハ本件ニ付テハ内談ヲ統ヶ得ヘシト附言シ置キタル趣ナリ

四、英國政府ノ申出

五月一日英國政府ハ在英大使館ニ対シ前顕英海軍覚書ト同趣旨ノ左記要旨ノ「メモランダム」ヲ送付  
越セリ

#### 英國政府覚書要旨

一、「ホーキンス」級艦四隻現在備砲ヲ本年末日前ニ撤去、甲巡十五隻一四四、一一〇噸（濠州海軍所属

艦二隻ヲ含ム）トス右四隻ノ内三隻ニハ六・一吋ヲ越ヘサル砲ヲ搭載シ之ヲ乙巡噸數中ノ一部トシテ  
保有ス

二、C級巡洋艦五隻ヲ廢棄シ英帝国所属巡洋艦總噸數ヲ本年末日現在ニ於テ三三九、〇〇〇噸以下タラ  
シムヘシ但シ右ハ濠州海軍所属艦四隻ヲ含ムモ後段練習艦ヲ除ク

三、「ホーキンス」級艦第四隻目ハ建造費節約ノ為練習艦トシテ保有シ之ヲ一九三〇年倫敦海軍條約第二  
附屬書第五款(四)ノ二所定ノ如ク取扱ハレンコトヲ希望ス

四、英政府ハ右ニ依リ日本ノ海軍上ノ利益ハ何等害セラルルコトナシト思考シ右ノ如キ同艦ノ武装撤去  
及保有ニ対シ日本政府ニ於テ何等異議ヲ有セサルヤ否ヤヲ承知致シ度シ